

職業能力開発研究

第 22 卷

2004年

〈論 文〉

- 訓練技術再構築の構想 新井 吾朗
 — インストラクショナルデザインと既存指導技法の融合 —
- 高齢者に対する訓練及び訓練手法のあり方への提言 坂尾 英行
 辻 栄一
- 学習支援教材開発の方法 島田 昌幸
 e-ラーニング活用による研修のシステム化の構想 菊池 達也
- 訓練ニーズからみた「職人仕事」訓練の今日的意義 谷口 雄治
- 鉄道現場における技能者養成訓練の略史と保存される訓練用教材 堤 一郎
 — 現存する実物教材を主とした調査から — 大川 時夫
- 情報技術関連の実習支援教材の Web 化 福良 博史

〈研究ノート〉

- 職業訓練と諸国憲法の人権規定 小原 哲郎
 — 比較憲法論的考察 —
- 職業の選択 村瀬 勉
 — パスカルの「パンセ」において — 田中 萬年

〈資 料〉

- 職業訓練の評価 菊池 真
 山見 豊
- 専門課程修了生のキャリア形成 松崎 学
 山見 豊

「職業能力開発研究」誌投稿規定

【投稿規定】

原則として職業能力開発総合大学の教職員に限る。共同執筆者は学外者であってもよい。

【投稿の種類】

職業能力開発に関する論文、研究ノート、資料、紹介または解説とする。原則として、他紙に掲載されたものを重複して投稿できない。

【原稿の長さ】

論文、研究ノート、資料、紹介又は解説のいずれにおいても400字詰原稿用紙約50枚（図表含む）を標準とする。英文抄録をつける。

【投稿、採択、校正】

投稿原稿は「職業能力開発研究」編集専門部会事務局宛に提出する。原稿の受け付けは年1回とし、締切日は別に定める。原稿の採否は編集専門部会で決定し、投稿者に通知する。査読の結果、修正を要する場合は速やかに修正のうえ、再提出して審査を受けなければならない。校正は著者が3回まで行い、それ以降は編集専門部会に一任する。掲載された原稿は返却しない。

【執筆規定】

1. 本文：400字詰原稿用紙50枚（図表を含む）を使用のこと。ワードプロセッサ等を用いる場合は64字×27行（A4版横置き・袋とじ縦割り）とすること。
 2. 英文抄録：200語以内とし、A4版用紙にダブルスペースで印字する。
 3. 図表（写真を含む）：1つの図表ごとに別紙を用いる。図表は白紙（又は淡い方眼紙）にトレース又は、プリンタ、プロッタ等で作成し、できあがり時の寸法を記すこと。
 4. 文献：本文の最後に列記する。書き方は下記による。
 - ①雑誌＝著者名、表題、雑誌名、巻（号）、発行年（西暦）、引用ページ
 - ②書籍＝著書あるいは編者名、書名、発行所、発行年（西暦）、引用ページ
 5. 用字・用語：現代かなづかいとする。アラビア数字を使うこと。
-

職業能力開発研究

第 22 卷

目 次

〈論 文〉

訓練技術再構築の構想 — インストラクショナルデザインと既存指導技法の融合 —	新井 吾朗	1
高齢者に対する訓練及び訓練手法のあり方への提言	坂尾 英行 辻 栄一	35
学習支援教材開発の方法 e-ラーニング活用による研修のシステム化の構想	島田 昌幸 菊池 達也	55
訓練ニーズからみた「職人仕事」訓練の今日的意義	谷口 雄治	81
鉄道現場における技能者養成訓練の略史と保存される訓練用教材 — 現存する実物教材を主とした調査から —	堤 一郎 大川 時夫	99
情報技術関連の実習支援教材の Web 化	福良 博史	111

〈研究ノート〉

職業訓練と諸国憲法の人権規定 — 比較憲法論的考察 —	小原 哲郎	131
職業の選択 — パスカルの「パンセ」において —	村瀬 勉 田中 萬年	147

〈資 料〉

職業訓練の評価	菊池 真 山見 豊	183
専門課程修了生のキャリア形成	松崎 学 山見 豊	209

(英文要約)